

【講義】

構造化の基礎

社会福祉法人 とちのみ会
とちのみ学園

石 塚 大 志

この時間はモデル事例を通し、構造化の方法や内容など、構造化の基本的な理解を目標としています。この講義を通じて知ってもらいたいことは、以下の5点です。

- 構造化の様々な技法
- 障害特性に基づいた構造化
- 構造化のヒントとなる様々なアセスメント（評価）
- 構造化は1回したから終わりではない
- 対象者にあわせて、個別に、アップデートを重ねていく

この講義の内容

1. モデル事例

「生活介護事業所を利用している、行動障害があるAさん」

2. 構造化の解説

- 構造化を行うためのアセスメント
- 構造化の基本
- 構造化の技法
- いろいろな自立課題

3. まとめ

モデル事例 | はじめての構造化

20歳のAさんは、この春から生活介護事業所とGHを利用しています。それまでは障害児入所施設を利用していましたが、激しい他害や自傷といった行動障害があり、退所年齢になっても行き先がなく、いわゆる加齢児として児童施設で生活していました。

新規利用に際し事業所では、障害児入所施設（休日・夜間）や通っていた特別支援学校（日中）から、支援計画や経過について聴き取りを行いました。その中で、これまであまり障害特性に配慮された関わりを持たれてこなかったことがうかがえました。

【行動障害などのAさんの情報】

重度知的障害、自閉症、障害支援区分6、アトピー性皮膚炎、コミュニケーションは無発語、床や壁への頭打ち（自傷）、引っ掻く・噛みつく・髪を引っ張る（他害）、睡眠障害、放尿・放便、突然笑ったり泣いたりする、汗をかかない（熱がこもりやすい）。

モデル事例 | 情報を整理する

生活介護事業所では、これまで集めた情報を整理（事業所内で共有）し、一つの場面で、短時間から、全職員が共通した支援を行うこととしました。「Aさんにはこんな障害特性があって、こんなことが好きなんだ。片付けが得意なんだ。…真面目な人だ。」

Aさんの障害特性

- ことばを聞いて理解することが苦手
- 「いつ終わるか」を理解することが苦手
- 特定の物事に強く固執
- 特定の感覚が過敏（大声・泣き声）
- 落ち着きがなく、その場にとどまっていられない
- 記憶することが苦手
- 抽象的・あいまいなことの理解が苦手

Aさんの好きなこと・得意なこと

- テレビ
- 音が出る玩具
- 甘いお菓子やジュース
- お風呂（ぬるいお湯）
- 片付け（決められた場所）
- 洗濯挟みを紙にはめる



まずは比較的職員数が確保しやすい作業場面で、Aさんの障害特性に即した支援を開始することとしました。

実践 1 | 物理的構造化

作業エリア作成に当たって、①人の動きや視線が気になる、②大声や泣き声が苦手、といったAさんの障害特性を考慮し、衝立（パーテーション）を設置したり、初めは人の少ない時間帯から作業を始めることにしました。



休憩には「洗濯ばさみはめ」を準備し以下のようなエリアを作成しました。
①休憩場所は作業場所とは違う場所に
②ブルーマットを敷き、分かりやすく
③他者の視線や動きが気にならないように、パーテーションを設置



実践2 | 作業（課題）の準備

次は作業課題の準備です。これまで「紙すき」や「農作業」、机上での簡単な「軽作業」を行った経験はありますが、それぞれ次のような状態だったそうです。①指先を使った細かな作業は苦手（できない）、②一つの作業を5分以上続けられない、③椅子に座ってられない（1-2分で離席）、④広い場所だと走り回る

集めた情報から、①手の平全体を使い、②5分以内で、③立ってできる課題を、④個人のエリアで、作業を行うこととしました。

ピンポン球のプットイン課題…
一人で最後まで完了！！



実践 2 | 作業の種類を増やす

ピンポン球の自立課題を行っていたAさんは、集中して、とても楽しそうにしていました。「コンツと鳴って落ちることが楽しいのかな。」「そういえば音が出る玩具が好きだったし…音や感覚的に刺激があることが好きなのかな。」と、予測を立てた職員は今度はフィルムキャップ閉めの課題を準備しました。容器と蓋を閉める時に、パコツと気持ちよく閉まる課題です。

2課題、約8分を一人で完了！！
ただ、机に2つの課題を置いていても、毎回違う課題から始めていました。「自立してできてるけどこの先順序が決まった作業をすることを想像したら、課題の順序も伝えられた方が良さな。」



実践 2 | 作業の順番を伝える

そこで2段BOXを準備し、1段目にピンポン球の課題、2段目にフィルムキャップの課題をセットし、「上から下に」という順番を伝えようと思いました。職員がモデルを見せたり、直接Aさんの手を持って課題を取ったりしてみましたが、なかなか順番は伝わりません。BOXを横にして「左から右へ」と変えてみましたが、やはりダメでした。

観察している中で、Aさんが課題を取る共通点が見えてきました。

- ➡ 目に入った課題
- ➡ 取りやすいところ（手前）

そこで課題をカゴに入れ、物理的に上から下に順に取っていくスタイルにしました。



実践 2 | これからの作業

課題を「上から下に」順番にとり、終わった課題は「終わりの箱」に片付け、それぞれの課題も、作業全体も「なくなったら終わり」としました。

生活介護事業所の利用も1ヶ月が経過した頃、利用当初から取り組んでいた作業は、4課題→休憩→4課題を集中して取り組み、約50分間を作業室で過ごしています。

作業(約20分)



休憩(約15分)



作業(約20分)



事業所内の個室に戻って、ティータイム



実践3 | スケジュール

これまで学校や障害児入所施設でのAさんとの関わりは、言葉が中心でした。しかし「ことばを聞いて理解することが苦手」なAさんにとって、どちらかというとは者の動きや、決まった流れの中で、この場面で何かを言われたから動いた、といった状況だったように推測されました。そこで事業所では、活動や場面が変わるときには、関連する具体物を職員がAさんに手渡すようにしました。

作業場面も自立的に活動できるようになったこともあり、より自立的に生活が送れるよう、また見通しを持ち安心して生活が過ごせるよう、スケジュールの導入を行うことにしました。

Aさんの個室の目に入りやすい場所に、次の活動一つだけを提示するところから始めました。最初は投げられたり壊されたりしましたが、スケジュールの意味が伝わると、少しずつ壊されることも少なくなっていきました。

実践3 | スケジュール

次の活動（具体物を1つ）のみの提示から開始したスケジュール、1個を2個、2個を3個と、提示する数を増やしていきました。

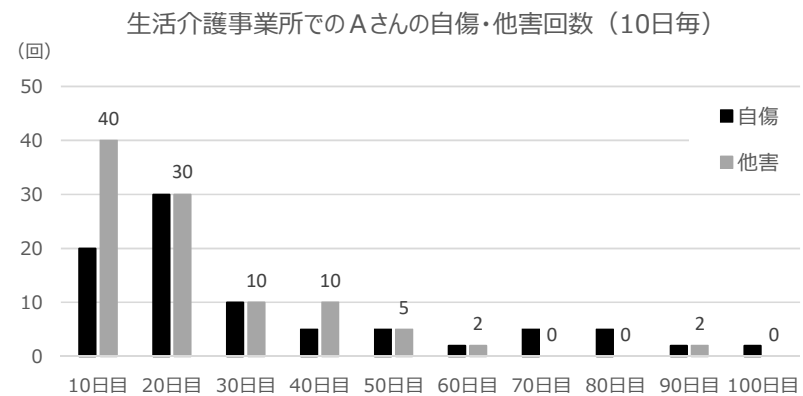
その後、外部での使用も想定し、具体物から持ち運びができる（具体物を貼った）カード式への移行を進めています。Aさんが理解でき、少し先の予定を理解することで、以前よりもスムーズに活動へ向い、自立的に過ごしています。



その後 | 障害特性を考慮した構造化

作業場面から取り組んだ構造化。そこからスケジュールを作成し、食事場面や散歩の場面、余暇の場面など、それぞれの場面でAさんの障害特性を考慮した構造化を行ってきました。事業所を利用してから約4ヶ月、Aさんにとって快適で分かりやすい環境を提供する中で、自傷や他害などの行動は大きく減少していきました。これまでの環境がどれだけ分かりにくく、また不安だらけの生活だったのか、そんなことがグラフから推測されました。

GHでは睡眠障害や様々な行動障害が続いているそうです。生活全体を通し、障害特性を考慮した環境を整えることが、直近の大きな課題です。



解説 | 構造化を行うためのアセスメント

- 無理のない、楽しめる、機能的な内容を「効率的な」方法で構造化していくためにアセスメントは欠かせない

- **注目点 1**

本人に出来そうな事 ・ 作業等の取り組み方
集中できる時間 ・ 気の散りやすさ・・・他

- **注目点 2**

活動水準 ・ 現在もっているスキル・興味
変化への抵抗 ・ 移動への不安の強さ
言葉の理解度 ・ 説明の困難度・・・他

解説 | 様々なアセスメント

自閉症スペクトラム障害

広汎性発達障害日本自閉症協会
評定尺度 (PARS-TR)

適応行動／不適応行動

日本版Vineland
適応行動尺度 II

異常行動チェックリスト
日本語版 (ABC-J)

行動の原因

機能的アセスメント／
ABC分析／機能分析 (FBA)

知的な能力／発達の状況

ウェクスラー式成人
知能検査 (WAIS-III)

ウェクスラー式児童用
知能検査 (WISC-IV)

田中ビネー知能検査 V

自閉症・発達障害児
教育診断検査 (PEP-3)

※他にもさまざまな評価方法があります
※これらは「フォーマル」な評価と呼ばれます
※日常の行動観察や背景情報などをもとにした
「インフォーマル」な評価も非常に重要です

解説 | 構造化の基本

アセスメント : 行動観察して仮説を立てる



構造化 : 安心できる環境の構造化



再アセスメント : 再び行動観察して仮説の検証



再構造化 : 本人の特徴によりあった構造化



再々アセスメント

・・・繰り返していきながら 安心して生活できる環境を作る

解説 | 物理的構造化

■ 部屋や教室、作業所などの家具や使用する物などの配置

物理的、視覚的に分かりやすい環境を作る

- 棚、家具の配置
- じゅうたんや床材の色分け
- 間仕切りカーテン…他

活動と場所の1対1対応

- 遊びや休憩の場所
- 作業（自立課題）の場所
- おやつ、食事の場所
- トランジッションエリア（スケジュールの提示場）…等

妨害刺激の除去

- 不要な物を片付ける
- 空間の調整・遮断
- 音や光、周囲の動き、時計の置き場所…等



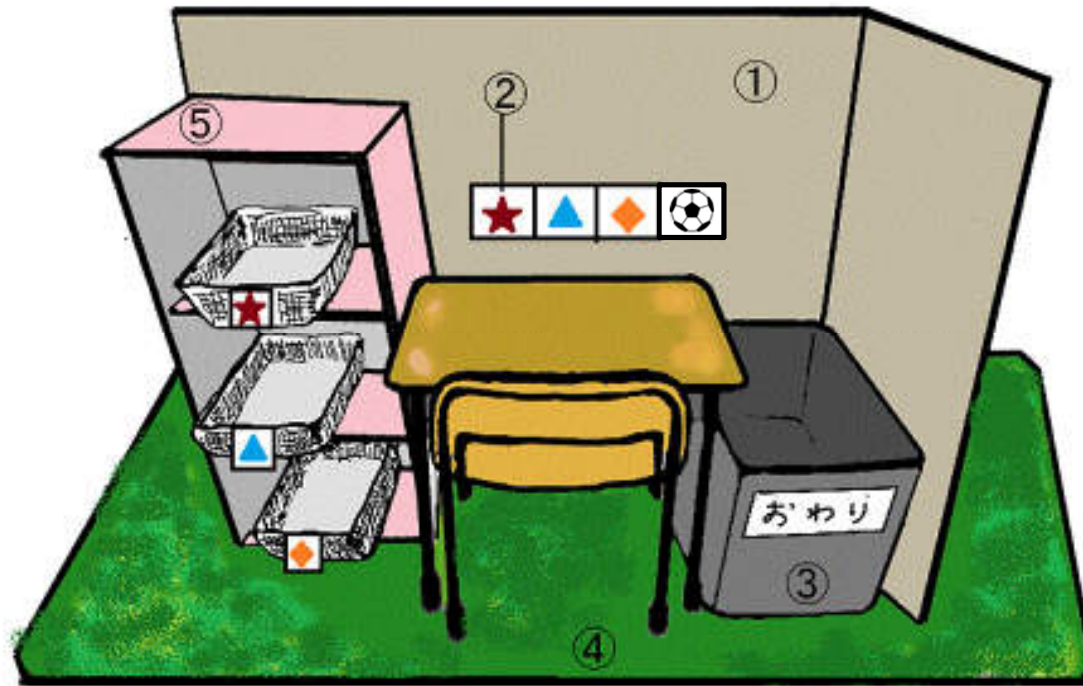
解説 | ワークシステム

■ 自立的活動をするための情報を伝える方法

- 自立的に活動するために
自閉症の人が一人で活動できるように4つの情報を伝える
①何をするのか、②どれくらいするか、③どうなったら終わるのか、
④終わったら次に何をするか
- ワークシステムの種類
 - 実物を並べる
 - マッチングを使う
(絵・形・文字・記号など)
 - リストを使う (単語や文章)
 - フィニッシュボックスの使用
 - 時には、本人の興味があるものや
キャラクター等を使う



解説 | ワークシステムの一例



- ①間仕切り用パーテーション
- ②ワークシステム（形カードのマッチング）
- ③フィニッシュボックス
- ④色分けされた床（敷物）
- ⑤課題や作業の材料棚・材料かご

解説 | ルーチン (習慣化)

- いつも、同じ手順で課題を行う

→上から下へ、左から右へ



- 習慣化することで、普段の生活を安定したものにします

- 例 1) ガンダムのフィギアを棚から出す
→見て余暇を過ごす →棚に戻す
- 例 2) 鼻をかむ →ゴミ箱に捨てる



- ルーチンを使って繰り返しているうちに学習する

解説 | 視覚的構造化

■ “見て分かる”ようにして理解しやすく

● 視覚的提示

→課題を達成するための流れを視覚的に示す

絵や写真による指示・出来上がりの見本・作業手順書…他

● 視覚的明瞭化

→重要な情報を視覚的に強調する

色やマークを付ける・作業や休憩所などの場所を区切る

作業をマスターするために、汚れなどをさらに明確にする…他

● 視覚的組織化

→材料や空間を組織する

左から右へ、上から下への手順

カゴの有効活用（材料などを容器に入れ分ける）…他

解説 | 視覚的構造化 (例)



解説 | いろいろな自立課題

① マッチング

- ・色、形、大きさ
- ・文字、単語、言葉
- ・手触り
- ・欠けている物
- ・異なる形の属性
・・・他

② 組み立て

- ・押す、ねじる、はめる
- ・ねじまわし
- ・工具を使う
・・・他

③ 事務仕事

- ・紙を折る、封筒に入れる
- ・ファイリングをする
- ・あいうえお順に並べる
- ・住所ラベルを張る
- ・ワープロを使う
・・・他

④ 計算

- ・かぞえる
- ・数字順に並べる
- ・計算する
- ・計算機
・・・他

⑤ 読み

- ・文字を合わせる
- ・絵と物と文字を合わせる
- ・自分の名前の認識
- ・メニュー・電話帳
・・・他



解説 | スケジュール

■ どのような活動があるのか、その流れがどうなっているかを、視覚的に示す方法

個別化

一人ひとりに合ったものを作ることが大切

- 無理のあるスケジュールは続かない
- 本人の理解力、生活ペース、行動範囲を考慮する
- 他の人に合わせるためのものではない、本人が理解するためのもの



解説 | スケジュールの種類

スケジュールの種類（どうやって伝えるか）

- 実物
- 絵や写真などのカード
- 絵と文字などの組み合わせ
- 文字のカード（単語）
- 文字のリスト（文章）



はみがき



どれを使うとその人が理解しやすいかを
先ず考える！



解説 | スケジュールの長さは？

スケジュールの長さは？

- 次の行動だけ
- 2個、3個、いくつか…
- 半日
- 一日
- 1週間…

← 絵と文字のスケジュール

↓ 文字のスケジュール

↓ 文字のリスト

10:00	
10:30	作業
11:30	休む
1:00	作業
1:50	帰宅

時刻	時間	内容
0:00	0:00	作業場へ移動
0:30	0:30	作業(プログラミング)
1:00	1:00	休憩(好きなゲーム)
1:50	1:50	帰宅
5:00	5:00	家へ移動
0:00		起床

どれくらい先の見通しが立っていれば安心できるか？
いくつかのスケジュール提示なら理解できるか？

まとめ | 構造化の基礎

■ 構造化とは

今、何をやる時間か、次にどうなるかなど、活動や生活の中のしくみなどを、その人に分かりやすく示す方法。

■ 自閉症の人が理解するための6つの情報

- ①どこで（物理的構造化）
- ②いつ（スケジュールなど）
- ③何を（ワークシステム、視覚的構造化など）
- ④どのくらい、いつまで（ワークシステム、視覚的構造化など）
- ⑤どのようなやり方で（ワークシステム、視覚的構造化など）
- ⑥終了を理解し、次に何をすればいいのか（ワークシステム）

これらについて、その人に合う方法を吟味し、構造化していく

まとめ | 構造化の基礎

■ どうして構造化するのか

- 理解をサポートする
- 混乱を未然に防ぐ
- 適切に情報に焦点を当てることを助ける
- 情報に注意集中し、効果的に学習するのを助ける
- 自立するために、自分で行動するのを助ける

障害特性を考慮し、本人の興味・関心、得意なことを活かし、個々に応じた構造化（個別化）が、支援の基本。

